

平成 28 年度

学生生活調査報告書



Shizuoka University of Welfare

静岡福祉大学

# 目 次

あいさつ	1
<b>序章 調査の概要</b>	
調査方法・データの特徴（所属学科、学年、性別）	2
<b>第1章 学業</b>	
1-1 大学での勉強の重要性	3
1-2 授業に対する理解	3
1-3 勉強時間	3
1-4 学業についての教員との会話	4
1-5 履修科目の選択方法	4
FD委員会からのコメント	5
<b>第2章 進路・キャリア支援</b>	
2-1 卒業後の進路	6
2-2 取得したい資格	6
2-3 将来設計（進路）への不安	7
2-4 キャリア支援課の活用	7
2-5 キャリア支援課への要望や質問	7
キャリア支援課から学生のみなさんへ	8
<b>第3章 学生生活</b>	
3-1 アルバイトの状況	9
3-2 車の免許	9
3-3 同居家族の有無	10
3-4 学生食堂	10
3-5 通学時間	10
3-6 通学手段	10
3-7 大学でのボランティア活動への参加	11
3-8 学友会主催行事の満足度	11
3-9 行事に対する要望や意見	12
3-10 学友会活動への参加	12
3-11 大学生活の充実度	12
3-12 興味・関心	13
3-13 掲示板の使用	13
3-14 Eメールの利用	14
3-15 学生マナーについて	14
3-16 学内外でのトラブル	14
3-17 学生生活への悩み	15
3-18 退学について	16
3-19 オフィス・アワーについて	16
3-20 学生支援総合センターについて	16
学生支援総合センターからのコメント	17
<b>第4章 大学</b>	
4-1 本学の理念（建学の精神）の認知	18
4-2 大学生活の満足度	18
4-3 施設や制度、対応等大学への要望や意見	19
学生厚生委員会からのコメント	20
総務課からのコメント	21

## 多様な学生の声に応える高等教育機関の責務

静岡福祉大学  
学長 太田晴康

恒例の学生生活調査報告書がまとまりました。

同調査は本学の学生を対象に毎年実施し、その内容を分析して内外に公表するとともに、修学環境の向上に役立てるという役割を果たしています。統計的にもっとも大きなウェイトを占める声やニーズを重視することはもちろんですが、個別性の視点からたとえ少数派であっても、きめの細かい対応や要望に対し解決を図る必要があることはいまでもありません。とくに本学は福祉系大学だけに、多くの学生が卒業後に多様な課題を抱えた人々に寄り添い、その解決を図るといった分野での活躍を期待されていることを思えば、学生生活調査においても、できるだけ一人ひとりの声を拾い上げていくという姿勢を大切にしたいと考えています。

そうしたなかで平成28年度の調査結果は全体としてはほぼ例年と同じ傾向が見られました。数パーセントの変動はあっても、そこに静岡福祉大学で学ぶ平均的な学生像を見いだすことができます。分析の詳細は項目ごとのページを参照していただきますが、ここでは各項目でもっとも多い回答をもとに、あえて単純化した場合に浮き彫りとなる学生生活を描いてみましょう。

まず、親と同居する自宅から大学までの通学時間は1時間を超え、交通手段は電車、バスを使います。それだけにバスの本数が増えるなど、大学へのアクセスが良くなって欲しいと願っています。将来、自分の希望先に就職できるかどうか不安が先立つけれども、卒業後の進路は福祉系、目指す資格は社会福祉士です。大学での勉強が重要と分かっている一方で、シラバスをみて選択したその授業の内容は全般的に難しいと感じています。学業についてときどき教員と話すことがあり、勉強時間は国家試験を控えた4年次はともかくとして、だいたい30分ぐらい。またボランティア活動に熱心とはいえ、週に3回はアルバイトに励み、1日あたりでは5時間をアルバイトに費やしています。しかし大学生生活は楽しく充実していて、興味や関心は友人との交流です。

もちろん、こうした多数の学生の声を浮き彫りにすることだけが調査の目的ではありません。少数であっても、取得したい資格は考えていない、卒業後の進路についても決めていない、大学生生活は充実していない、ハラスメントを受けたことがあり、人間関係に悩んでいるといった学生もいることを忘れてはなりません。そうした学生に対して大学として誠実に応えていくことこそが私たち、高等教育機関の役割といえます。実際、学生支援総合センターをはじめとして、さまざまな相談窓口があり、専門家をはじめとして多くの教職員が学生の悩みや相談に応じているという点が本学の特色でもあります。

今後は本調査が明らかにしたさまざまなデータを活用して、より良い修学環境の向上に役立てなければなりません。ハード面にとどまらず、たとえば学生カルテを通じた個別の対応や初年次教育の充実、カリキュラム編成への活用など、建設的な方向を視野に入れつつ、教育機関としての責務を果たしていきたいと考えています。

## 序章 調査の概要

本調査は平成 28 年 11 月から 12 月に、本学学部に所属する学生を対象に行った。

調査は、1 年次の必修科目である「キャリア支援Ⅰ」を履修する学生 199 人、2 年次の開講科目で受講者数の多い「地域福祉の理論と方法 B」、「保育心理学演習」を履修する学生 148 名、3 年次で「福祉行財政と福祉計画」を履修する学生 83 人と 4 年次で「キャリア支援Ⅳ」、「国家試験対策講座」を受講する学生 89 人の合計 519 人を対象として行った。回答者の所属学科、学年、性別の内訳は、表 1 のとおりである。

各学年の内訳は、1 年生が 170 人 (41.3%)、2 年生が 122 人 (29.6%)、3 年生が 70 人 (17.0%)、4 年生が 47 人 (11.4%) で、キャリアデザイン学生が 2 人 (0.5%)、未記入が 1 人 (0.2%)、1 年生 2 年生が全体の 7 割を占めた。

表 1 学生生活調査回答者の内訳

平成 29 年 2 月 1 日現在

学年	学科	女子		男子		性別不明 回答者	合計	
		在籍	回答者	在籍	回答者		在籍	回答者
1	心理	55	46	39	35	0	94	81
	医療	22	22	4	2	0	26	24
	健康	14	12	25	22	1	39	35
	子ども	30	26	6	4	0	36	30
2	心理	40	31	31	24	1	71	56
	医療	16	6	11	7	0	27	13
	健康	16	9	30	11	2	46	22
	子ども	19	19	12	10	2	31	31
3	心理	54	19	36	13	3	90	35
	医療	22	7	23	7	2	45	16
	健康	22	9	24	8	2	46	19
4	心理	63	20	39	6	2	102	28
	医療	27	10	15	4	0	42	14
	健康	13	3	26	0	2	39	5
キャリアデザイン	4	1	2	1	0	6	2	
未記入		0		0	1	0	1	
合計		417	240	323	154	18	740	412

※在籍者数には、休学者を含む

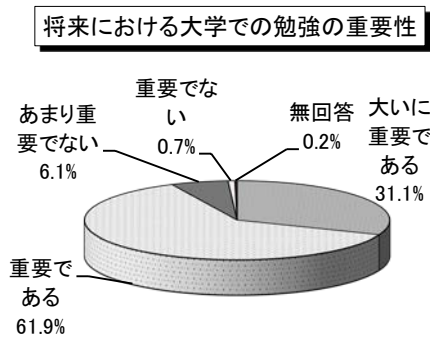
また、本調査は、学業、進路・キャリア支援、学生生活、大学に関する 4 つの領域から構成され、各項目に対して、選択形式または自由記述の形式で回答を得た。その具体的な質問内容と回答について、以下の章で述べる。

なお、以下の各質問項目の集計結果については、小数点第二位を四捨五入した結果を用いている。

# 第1章 学業

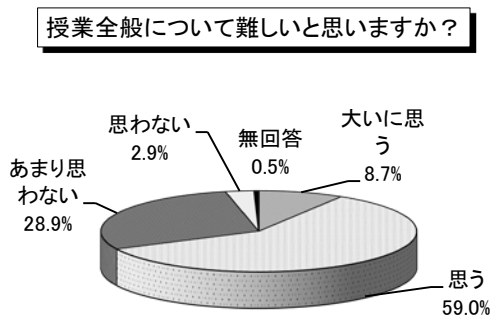
## 1-1 大学での勉強の重要性

「将来にとって、本学で勉強することはどの程度重要だと思いますか」とたずねたところ、「大いに重要である」が31.1% (128人)、「重要である」が61.9% (255人)、「あまり重要でない」が6.1% (25人)、「重要でない」が0.7% (3人)という結果であった。「大いに重要である」と「重要である」をあわせると93.0%と9割以上に達し、多くの学生が将来を考えて授業を履修し、勉強していることが分かる。



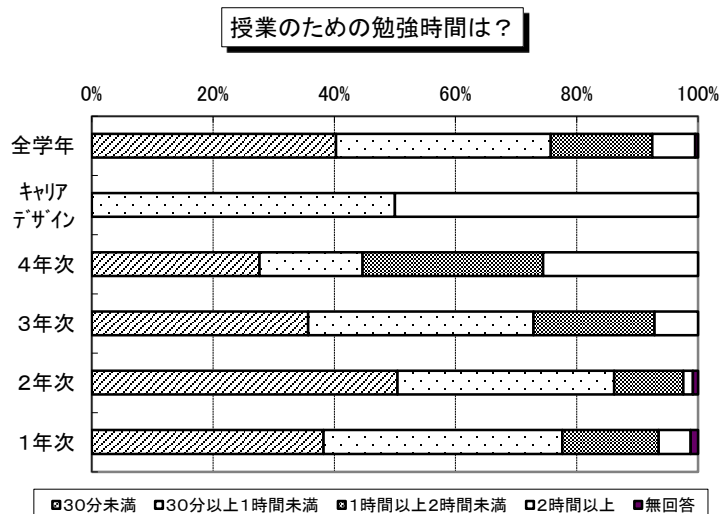
## 1-2 授業に対する理解

「本学の授業全般について、難しいと思いますか」とたずねたところ、「大いに思う」が8.7% (36人)、「思う」が59.0% (243人)、「あまり思わない」が28.9% (119人)、「思わない」が2.9% (12人)という結果であった。「大いに思う」と「思う」と回答した学生をあわせると7割弱の学生が授業全般について難しいと回答しており、授業内容を十分に理解できていない学生が多くいる可能性がうかがえる。



## 1-3 勉強時間

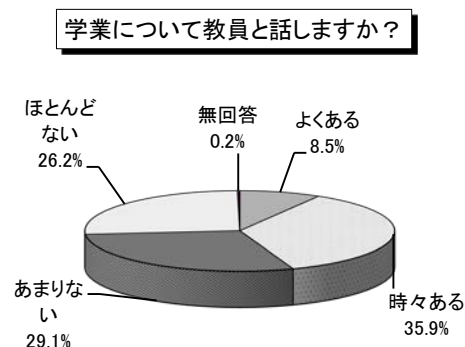
「週単位で平均すると一日どのくらい勉強していますか」とたずねたところ、「30分未満」が40.3% (166人)、「30分以上1時間未満」が35.4% (146人)、「1時間以上2時間未満」が16.7% (69人)、「2時間以上」が7.0% (29人)という結果であった(無回答2人)。「30分未満」と「30分以上1時間未満」をあわせると7割以上になり、勉強時間の少ない学生が多いことが示された。



一方、国家試験の受験が直前に迫っている4年生は「2時間以上」の割合が25.5% (47人中12人)と、最もその比率が高かった。

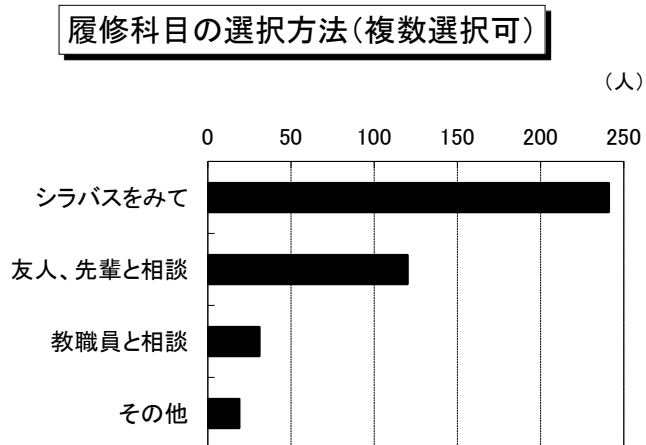
#### 1-4 学業についての教員との会話

「学業について教員と話をすることがあります（授業での質問を含む）」とたずねたところ、「よくある」が8.5%（35人）、「時々ある」が35.9%（148人）、「あまりない」が29.1%（120人）、「ほとんどない」が26.2%（108人）という結果であった。このように、教員との学業に関する会話は、44.4%の学生が「よくある」「時々ある」と回答した一方、55.3%の学生が「あまりない」「ほとんどない」と回答しており、二分される傾向が示された。



#### 1-5 履修科目の選択方法

「履修する科目をどのようにして選びますか（複数回答可）」とたずねたところ、「シラバスをみて」が58.5%（241人）、「友人、先輩と相談」が29.1%（120人）、「教職員と相談」が7.5%（31人）、「その他」が4.6%（19人）という結果であった。「シラバスをみて」と「友人、先輩と相談」をあわせると87.6%と8割以上に達した。



## FD委員会からのコメント

### 1. 学業について

大学での勉強の重要性については、93%の学生が「重要である」と認識しています。これは、専門職養成を柱とした本学の教育カリキュラムが、各資格取得のために必要な科目を多数設けていることと関係があると思われます。授業の難しさを問う質問に対しては、67.7%の学生が「授業が難しい」と回答しています。その理由としては、単に授業の内容が高度であるというだけでなく、学生の生活設計にも問題があるように思われます。

現今の学生は学費の支払いが容易ではありません。おのずから、アルバイトをせざるを得ない状況にありますが、それに当てる時間帯と、授業の時間帯との調整がうまくいっていない可能性があります。夜中にも働くことがあり、その場合には、翌日の午前中は授業を入れない、長時間のアルバイトの後は、休養する時間を確保する等の配慮を十分しているでしょうか。授業科目の選択は、必要な科目だから、友人と同じ科目を取りたいからという理由で決めると、無理が生じます。疲れのために、居眠りや、欠席が増えると、当然授業についていけなくなり、内容が難しいと感じてしまうことにもなるでしょう。

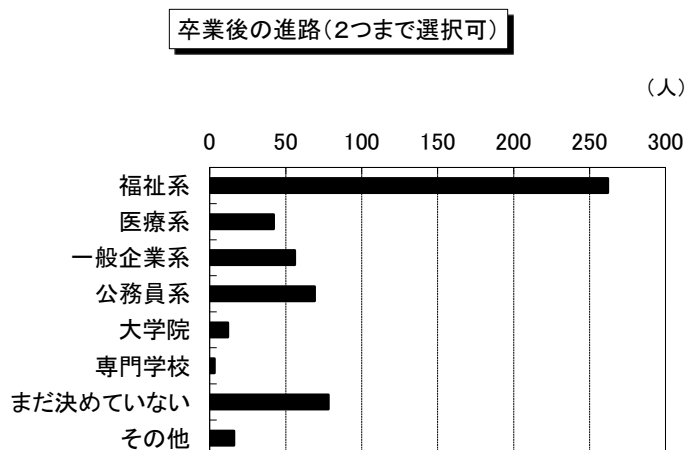
年度当初、受講科目を決めるときに、シラバスの参照や友人との相談のほかに、自分のアルバイト等、生活の状況を十分考慮して、時間を配分していく必要があると思います。そのためにも、教員のオフィス・アワーを利用して相談をしてほしいのです。いろいろな方法を提案してくれるでしょう。

本学の図書館は、国家試験対策関連図書が充実し、館内には個別スペースも確保されています。生活、学業にゆとりがあれば、図書館の活用も自然と増えてくると思います。大学4年間で充実したものにするために、学生生活を総合的に設計する努力を惜しまないでください。

## 第2章 進路・キャリア支援

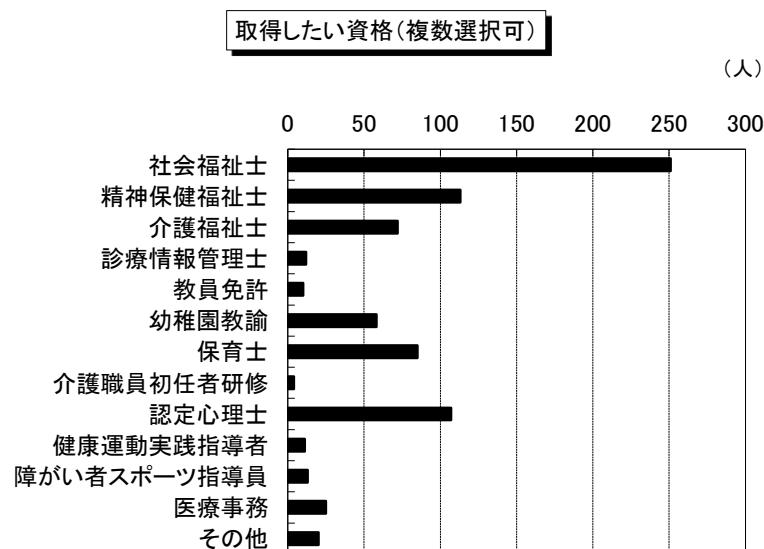
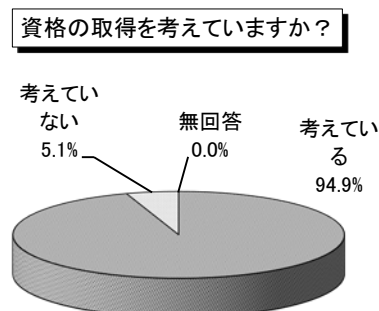
### 2-1 卒業後の進路

「卒業後の進路をどのように考えていますか（主なもの2つ）」とたずねたところ、「福祉系」が63.6%（262人）と半数以上を占め、つぎに「公務員系」が16.7%（69人）、さらに「一般企業系」が13.6%（56人）、「医療系」が10.2%（42人）、「大学院」が2.9%（12人）、「専門学校」が0.7%（3人）、「まだ決めていない」が18.9%（78人）であった。「その他」の内容は、保育系、幼稚園教諭、民生委員、その時の求人によってなどの記載がみられた。



### 2-2 取得したい資格

「就職などにつながる資格を取得したいと考えていますか」とたずねたところ、「考えている」が94.9%（391人）、「考えていない」が5.1%（21人）であった。「考えている」の具体的な内容（複数回答可）としては、「社会福祉士」が64.2%（251人）、「精神保健福祉士」が28.9%（113人）、「介護福祉士」が18.4%（72人）、「診療情報管理士」が3.1%（12人）、「教員免許」が2.6%（10人）、「幼稚園教諭」が14.8%（58人）、「保育士」が21.7%（85人）、「介護職員初任者研修」が1.0%（4人）、「認定心理士」が27.4%（107人）、「健康運動実践指導者」が2.8%（11人）、「障がい者スポーツ指導員」が3.3%（13人）、「医療事務」が6.4%（25人）という結果であった。「その他」の内容は、児童指導員、社会福祉主事、臨床心理士、福祉皮膚美容士、手話通訳士、レクリエーションインストラクターなどの記載がみられた。

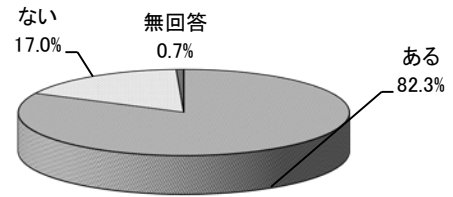




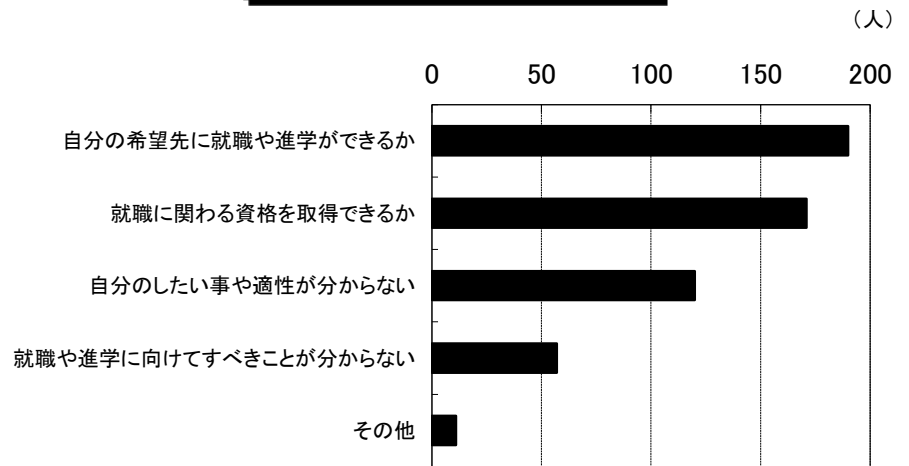
## 2-3 将来設計（進路）への不安

「将来設計（進路）について不安がありますか」とたずねたところ、「ある」が82.3%（339人）、「ない」が17.0%（70人）、無回答は3人であった。「ある」の具体的な内容（複数回答可）としては、「自分の希望先に就職や進学ができるか」が56.0%（190人）、「就職に関わる資格を取得できるか」が50.4%（171人）、「自分のしたい事や適性が分からない」が35.4%（120人）、「就職や進学に向けてすべきことが分からない」が16.8%（57人）という結果であった。「その他」の内容は、就職先でうまくやっていけるか、一人で暮らしてしっかり働けるか、奨学金の返済、結婚と仕事の両立、中途半端な現状等があげられた。

将来設計に不安がありますか？



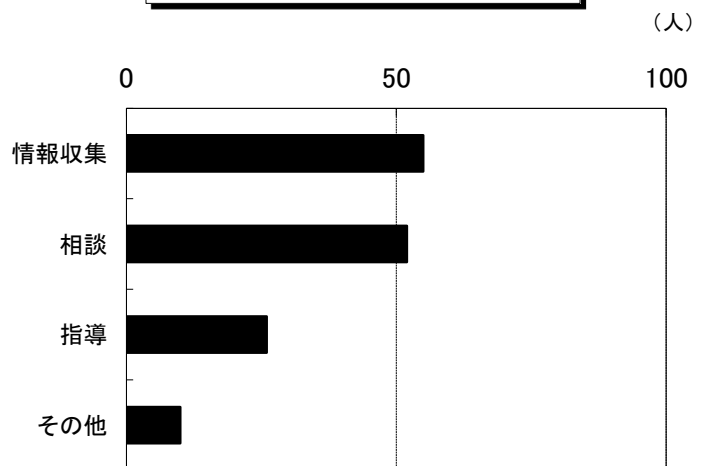
将来設計についての不安（複数選択可）



## 2-4 キャリア支援課の活用

「キャリア支援課を利用したことがある方は、利用した内容を教えてください（複数回答可）」とたずねたところ、「情報収集」が13.3%（55人）、「相談」が12.6%（52人）、「指導」が6.3%（26人）、「その他」は2.4%（10人）という結果であった。「その他」の内容は、勉強、静岡市へのインターンシップ、奨学金等があげられた。

キャリア支援課の利用内容（複数選択可）



## 2-5 キャリア支援課への要望や質問

10名の記述があった。要望としては、「キャリア支援課を利用できる時間をもう少し長くしてほしい」「相談予約の方法を分かりやすくしてほしい。相談内容が筒抜けなので、個室を利用させてほしい」「大学院への進学を希望しているので大学院の相談や情報を提供してくれるようになると嬉しいです」などがあった。今回、質問の記載はみられなかった。

## キャリア支援課から学生のみなさんへ

### 2-1 卒業後の進路

本学は、開学以来、高い就職内定率を確保しております。これは、本学が社会に必要とされる人材を育成している証だといえるでしょう。福祉の高等教育機関として実績を積み重ねる中で、福祉・医療分野への就職を希望する学生は、60%以上を占めております。近年は、若干「一般企業・公務員系」に進む学生が増えている傾向にありますが、一般企業に進んだ学生の多くは、大学で学んだ「福祉」の心や精神、コミュニケーション力などを活かしての就職となっています。

在校生のみなさんは、それぞれの学年に応じて、自分自身の進路について真剣に考えていただき、将来のキャリア・プラン、ライフ・プランを描いてください。そしてその到達点に向けて、何が必要なのか、何をすべきなのかをしっかりと把握してください。そこから自分自身のキャリア形成がスタートします。

### 2-2 取得したい資格

本学は、学生の資格取得を推奨しています。また、94.9%の学生は、「就職などにつながる資格を取得したいと考えている」と回答しています。

資格取得という目標を立て、実行していくことで社会に役立つ実践能力を身につけるとともに、自分自身の大きな自信につながります。

### 2-3 将来設計（進路）への不安

将来設計に関しては、82.3%の学生は就職や進学問題、自分の適正が不明などの不安を抱えています。みなさんが抱える「不安」については、情報不足や知識不足を克服することで多くは解消することができます。

キャリア支援の授業を受講して、情報や知識を補完してください。また、キャリア支援課では、みなさんの不安に対し、情報収集の方法などの助言やさまざまな相談に対応しています。

### 2-4 キャリア支援課の活用

キャリア支援課では、学生のみなさんの就職活動がスムーズに進むように、就職活動本番に向けての準備のお手伝いから、就職活動が終了するまで、求人情報等の提供やガイダンスの開催、就職相談などの就職活動全般にわたり支援しています。今後も学生のみなさんの期待に応えられるように、支援の在り方について、さらに向上していけるよう努めてまいります。キャリア支援課は、皆さんの就職活動の応援団であり、アドバイザーであり、コンサルタントであると考えています。みなさんの希望を真摯に受け止め、実現に向けての手助けができるよう全力でサポートしてまいります。

### 2-5 キャリア支援課への要望

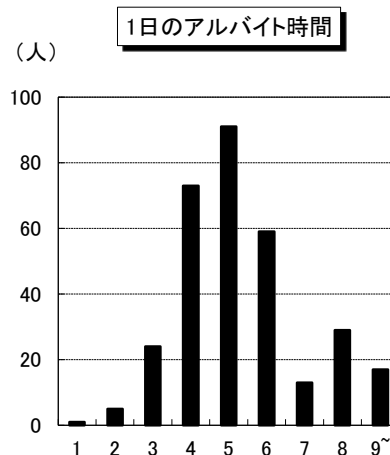
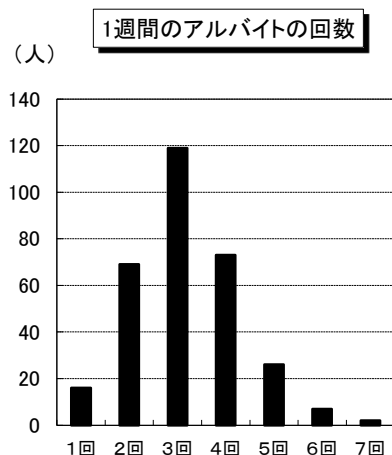
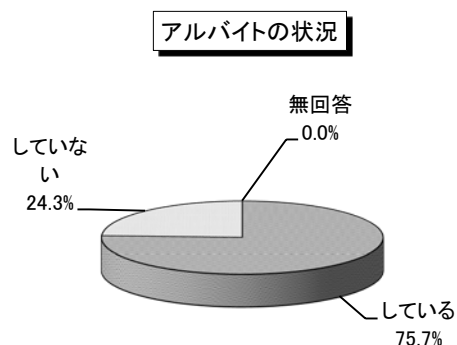
キャリア支援課へ多くの要望をいただき、その責任の重さを実感しております。学生のみなさんの期待に答えられるように支援のあり方や手法について検討し、レベルの向上を目指していきます。

キャリア支援課は平日8時30分から17時15分まで開いています。学生の要望に配慮しますので、何でも遠慮なくご相談ください。

## 第3章 学生生活

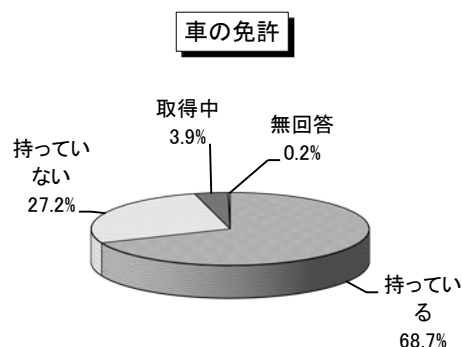
### 3-1 アルバイトの状況

「アルバイトをしていますか」とたずねたところ、「している」が75.7%（312人）、「していない」が24.3%（100人）であった。1週間のアルバイトの回数は3回が多く、1日に従事する時間は平均4～5時間が多かった。また、9人の学生（312人中2.9%）に週6回以上との回答が、46人の学生（312人中14.7%）に1日平均8時間以上との回答がみられた。一方、「していない」と回答した学生のうち、「アルバイトを希望」は35.0%（35人）、「アルバイトを希望していない」は26.0%（26人）であった。近年、保護者の経済的問題が増加傾向にあり、学生のアルバイトの回数や一日の時間も微増傾向にある。学年による差もあることから、さらに分析を行い、学業とアルバイトとの両立に関する課題を明らかにし、必要な指導や支援を行うことを検討したい。



### 3-2 車の免許

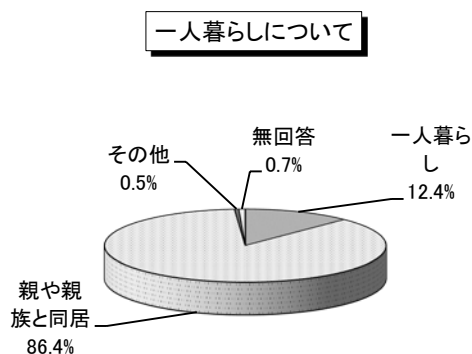
「車の免許を持っていますか」とたずねたところ、「持っている」が68.7%（283人）、「持っていない」が27.2%（112人）、「取得中（自動車学校に通学中など）」が3.9%（16人）であり、7割弱の学生が車の免許を取得していることが示された。学年によって差があると思われるが、通学や実習、就職等を考えて、卒業までに多くの学生が取得を目指している。



### 3-3 同居家族の有無

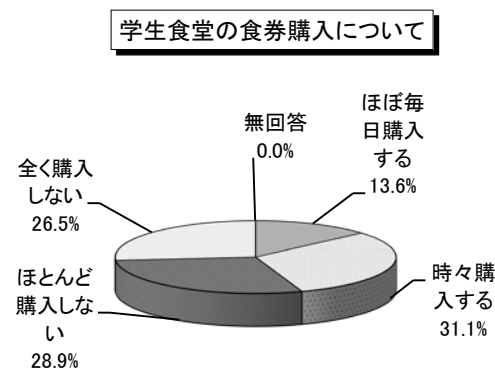
「現在、授業がある時期は一人暮らしをしていますか」とたずねたところ、「一人暮らし」12.4%

(51人)、「親や親族と同居」86.4%(356人)で、8割以上の学生が親や親族と同居をしていることが示された。「その他」の内容は、同棲があげられた。



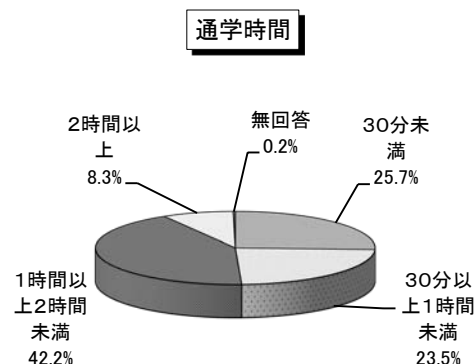
### 3-4 学生食堂

「学生食堂でどのくらいの頻度で食券を購入しますか」とたずねたところ、「ほぼ毎日購入する」が13.6%(56人)、「時々購入する」が31.1%(128人)、「ほとんど購入しない」が28.9%(119人)、「全く購入しない」が26.5%(109人)という結果であった。



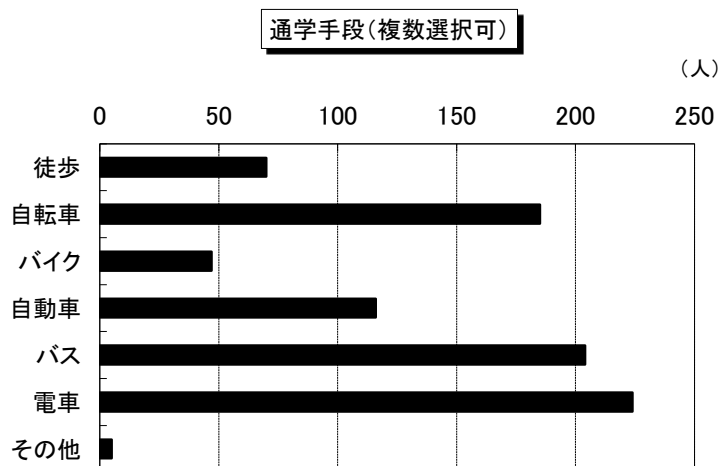
### 3-5 通学時間

「普段の通学時間はおよそどのくらいですか」とたずねたところ、「30分未満」が25.7%(106人)、「30分以上1時間未満」が23.5%(97人)、「1時間以上2時間未満」が42.2%(174人)、「2時間以上」が8.3%(34人)という結果であった。通学時間が1時間以上の学生が約5割をしめている。



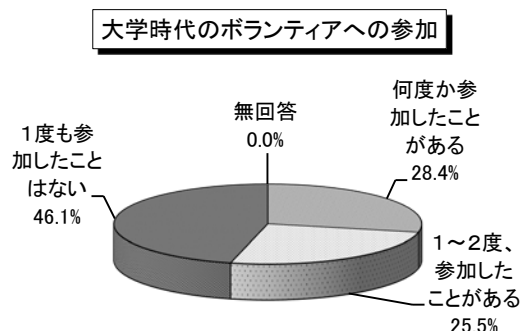
### 3-6 通学手段

「普段、どのような通学手段をとっていますか。使っている全ての手段を教えてください」とたずねたところ、「徒歩」が17.0%(70人)、「自転車」が44.9%(185人)、「バイク」が11.4%(47人)、「自動車」が28.2%(116人)、「バス」が49.5%(204人)、「電車」が54.4%(224人)であり、電車、バス、自転車を手段としている学生が多いと共に、他大学に比べて、自動車が約3割と高いことが示された。



### 3-7 大学でのボランティア活動への参加

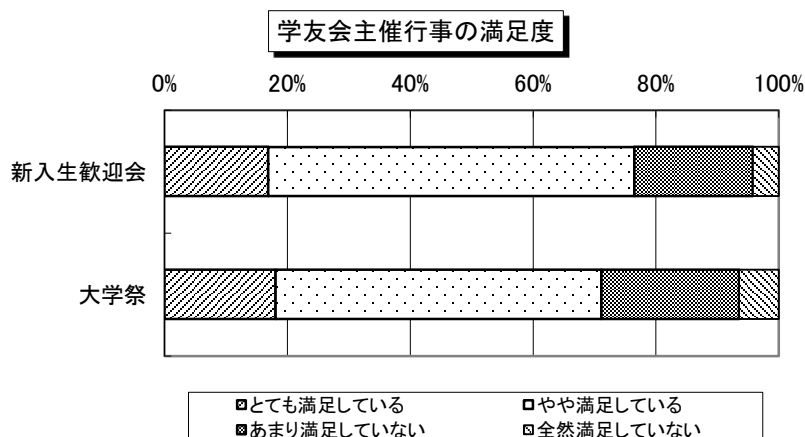
「本学に入学してから現在までの間で、ボランティア活動に参加したことがありますか」とたずねたところ、「何度か参加したことがある」28.4%（117人）、「1～2度、参加したことがある」25.5%（105人）、「1度も参加したことはない」46.1%（190人）という結果であった。ボランティア活動の参加経験がある学生は5割強であった。



### 3-8 学友会主催行事の満足度

平成28年度の11月までに学友会が実施した2種類の行事への参加割合についてたずねたところ、参加した学生の割合は、「新入生歓迎会」52.7%、「大学祭」57.3%であった。

さらに、参加者に「今年、学友会主催の行事に参加した方に伺います。満足しましたか」とたずねた。「新入生歓迎会」における「とても満足している」「やや満足している」は75.1%（217人中163人）、「大学祭」における「とても満足している」「やや満足している」は69.9%（236人中165人）であった。なお、調査以降に実施したクリスマス会には約150名の学生が参加し、満足度も高かったことから、1年間を通した行事の満足度を今後は調査したい。

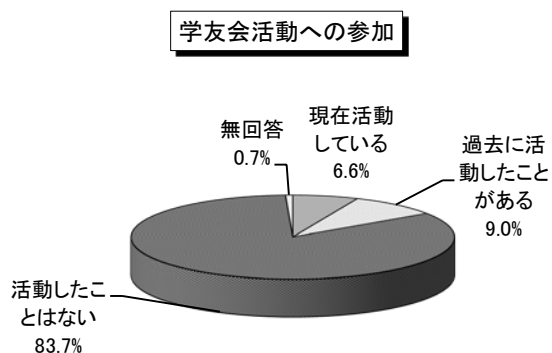


### 3-9 3-8 にあげた行事に対する要望や意見

46名の記述がみられた。新入生歓迎会については「非常識な人が多い」などの意見がみられた。大学祭については「2日やってほしい(土、日)」「出店が少ない、サークル以外にも、学年、学科ごとにやってほしい」「規模が小さい」「身内でたのしんでいる感じがあって参加しにくい雰囲気がある」「もっと有名な芸能人を呼んで欲しい」などの意見がみられた。他の意見として、「体育祭とか球技大会のような行事を是非やってみたいです」「もう少し行事をアピールした方が良くと思う」などがみられた。

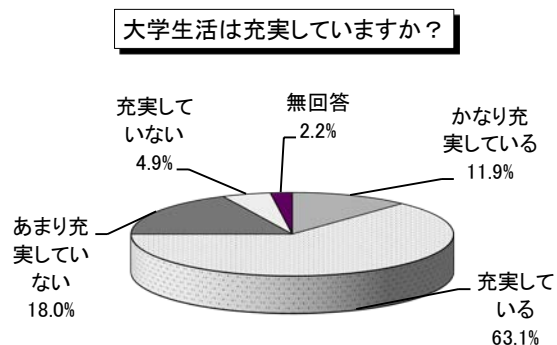
### 3-10 学友会活動への参加

「代議委員会、体育会・文化会、大学祭実行委員会、卒業記念委員会のいずれかで活動したことはありますか」とたずねたところ、「現在、活動している」が6.6%(27人)で、「過去に活動したことがある」が9.0%(37人)、「活動したことはない」が83.7%(345人)という結果で、学友会活動に参加経験のある学生は1割強であることが示された。



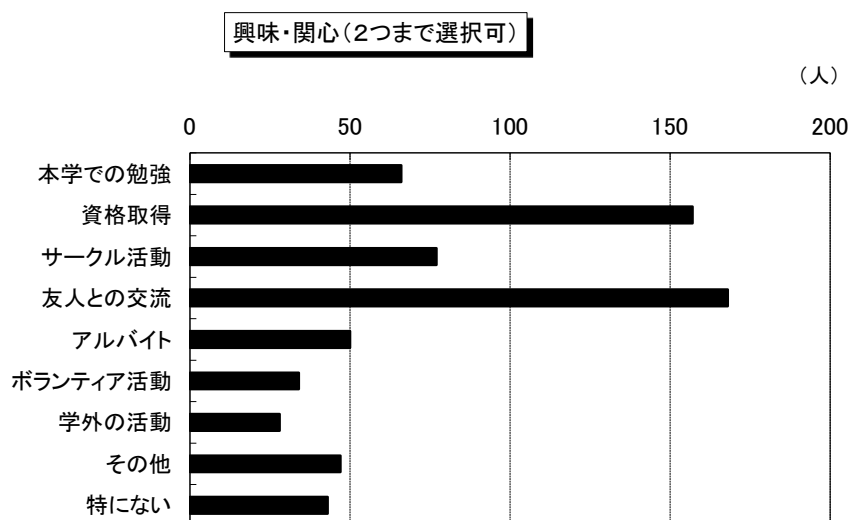
### 3-11 大学生活の充実度

「大学生活は充実していますか(楽しいですか)」とたずねたところ、「かなり充実している」が11.9%(49人)、「充実している」が63.1%(260人)、「あまり充実していない」が18.0%(74人)、「充実していない」が4.9%(20人)であり、7割強の学生に大学生活は充実しているとの回答が示された。



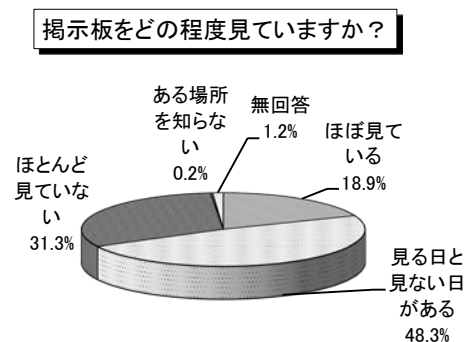
### 3-12 興味・関心

「現在、興味や関心を持って行っていることは何ですか（主なもの2つ）」とたずねたところ、8項目の中で、最も高かったのは「友人との交流」40.8%（168人）、ついで「資格取得」38.1%（157人）であり、この2点への興味・関心が他の項目に比べて高いことが示された。3番目に興味・関心が高いのは「サークル活動」18.7%（77人）であった。

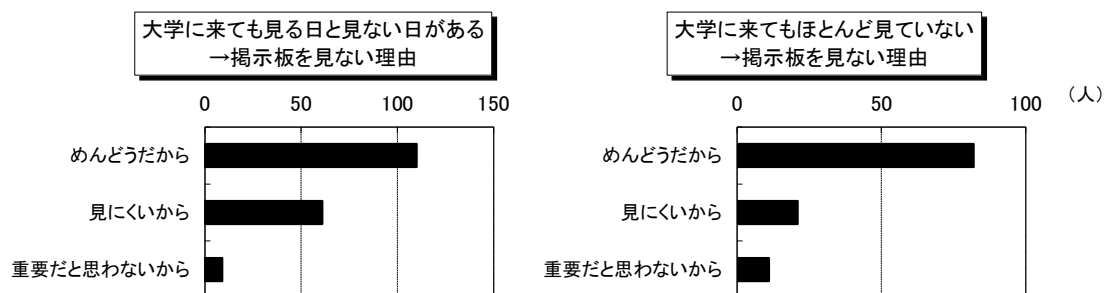


### 3-13 掲示板の使用

「掲示板（教務、学科、資格取得支援など）をどの程度見えていますか」とたずねたところ、「ほぼ大学に来るたびに见ている」が18.9%（78人）、「大学に来ても見る日と見ない日がある」が48.3%（199人）、「大学に来てもほとんど见ていない」が31.3%（129人）、「掲示板のある場所を知らない（だから见ていない）」が0.2%（1人）という結果であった。

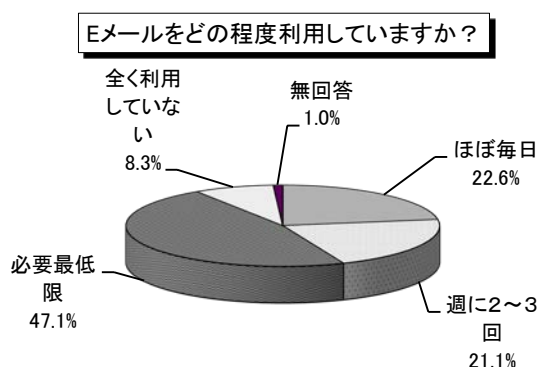


さらに「大学に来ても見る日と見ない日がある」「大学に来てもほとんど见ていない」と回答した方に理由をたずねた。「大学に来ても見る日と見ない日がある」と回答した人は「めんどうだから」が55.3%（110人）、「见にくいから」が30.7%（61人）、「重要だと思わないから」が4.5%（9人）であった。「大学に来てもほとんど见ていない」と回答した人は「めんどうだから」が63.6%（82人）、「见にくいから」が16.3%（21人）、「重要だと思わないから」が8.5%（11人）であった。



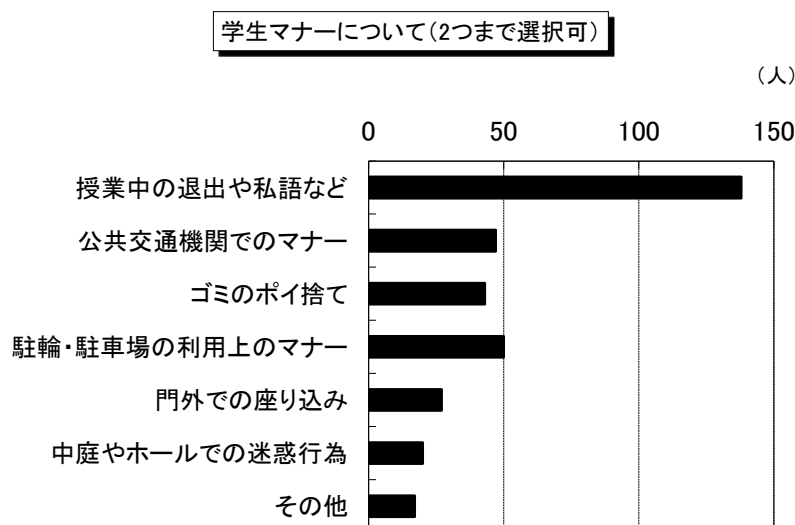
### 3-14 Eメールの利用

「大学のEメールをどのくらい利用（メールのチェックや送受信）していますか」とたずねたところ、「ほぼ毎日」が22.6%（93人）、「週に2～3回」が21.1%（87人）、「必要最低限（授業などで）」が47.1%（194人）、「全く利用していない」が8.3%（34人）という結果であった。



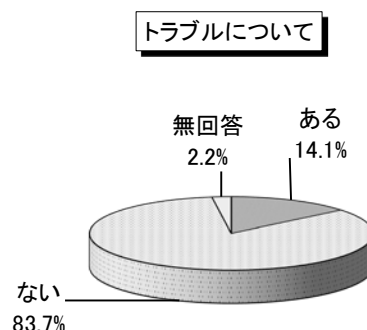
### 3-15 学生マナーについて

「本学の学生が改善したほうがよいと思うマナーはありますか（主なもの2つ選択）」とたずねたところ、「ある」が58.0%（239人）、「ない」が41.0%（169人）という結果であった。改善すべき点については、「授業中の退出や私語など」が57.7%（138人）、「公共交通機関でのマナー」が19.7%（47人）、「ゴミのポイ捨て」が18.0%（43人）、「駐輪・駐車場の利用上のマナー」が20.9%（50人）、「門外での座り込み」が11.3%（27人）、「中庭やホールでの迷惑行為」が8.4%（20人）「その他」が7.1%（17人）という結果であった。「その他」の内容には、喫煙所でのマナー、金品の盗難等の記載内容があった。



### 3-16 学内外でのトラブル

「本学に入学してから現在までの間に、学内外でトラブルにあったことがありますか」とたずねたところ、「ある」が14.1%（58人）、「ない」が83.7%（345人）であった。具体的なトラブルの内容（複数回答可）は、高い順に「交通事故」が24.1%（14人）、「ハラスメント（嫌がらせ）」が20.7%（12人）、「盗難」が20.7%（12人）、「ストーカー行為・脅迫」が10.3%（6人）、「宗教勧誘・マルチ商法」が5.2%（3人）、「悪徳セールス」は1.7%（1人）であった。「その他」への記載は自転車にいたずら、友人の無視、電車で痴漢まがいのことをされた等の記載がみられた。



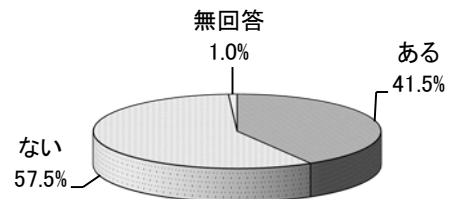


### 3-17 学生生活への悩み

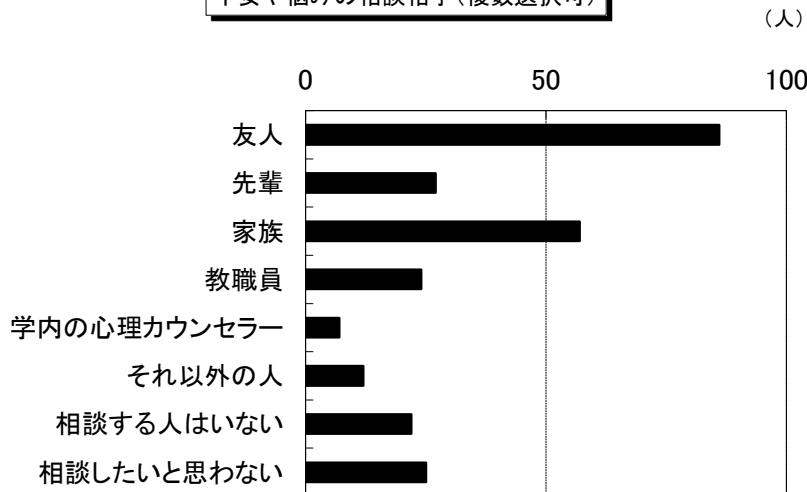
「現在、学生生活に関して悩みがありますか」とたずねたところ、「ある」が41.5% (171人)、「ない」が57.5% (237人)であった。「ある」の回答者に、「悩みを誰かに相談していますか」とたずねたところ、「友人」50.3% (86人)と「家族」33.3% (57人)が多く、ほかに「先輩」15.8% (27人)、教職員」14.0% (24人)、「学内の心理カウンセラー」4.1% (7人)、「それ以外の人」7.0% (12人)であった。

その一方、「相談する人はいない」12.9% (22人)、「相談したいと思わない」14.6% (25人)との回答もみられた。また、「ある」の回答者に「内容」をたずねたところ、高い順に「人間関係」30.4% (52人)、「学業面の問題」22.8% (39人)、「経済的事情」8.8% (15人)、「健康面の問題」7.0% (12人)、「その他」7.0% (12人)、「他の分野に関心がある」2.9% (5人)となった。

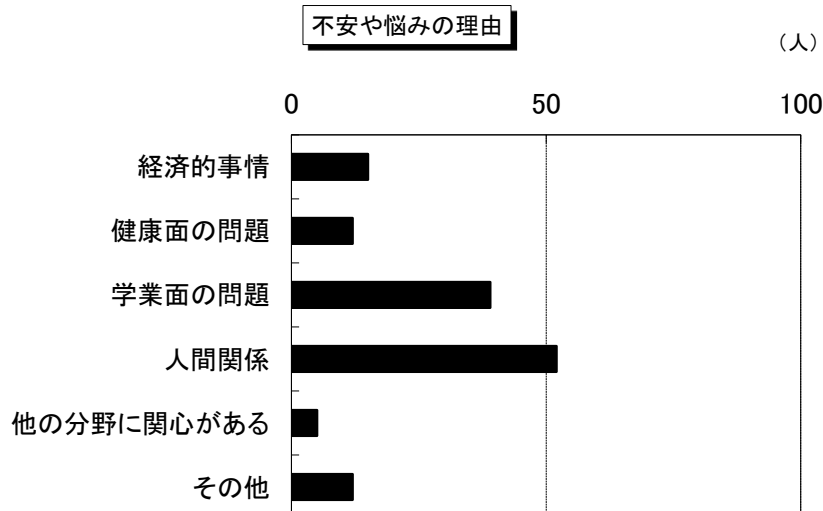
学生生活への悩み



不安や悩みの相談相手(複数選択可)

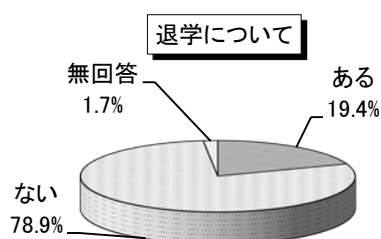


不安や悩みの理由



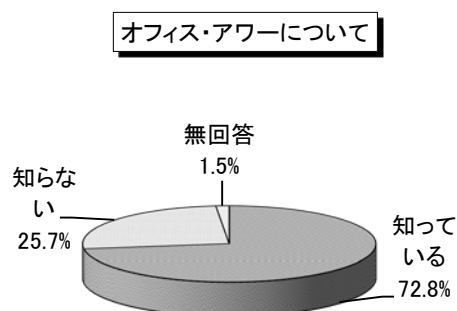
### 3-18 退学について

「本学を退学することについて考えたことがありますか」とたずねたところ、「ある」19.4% (80人)、「ない」78.9% (325人)であった。退学を考えた理由は、高い順に経済的事情」33.8% (27人)、「人間関係」が30.0% (24人)、「学業面の問題」25.0% (20人)、「他の分野に関心がある」が22.5% (18人)、「健康面の問題」3.8% (3人)であった。「その他」の内容には、精神的に不安定、お金の無駄、結婚を考えた、教員という記載がみられた。



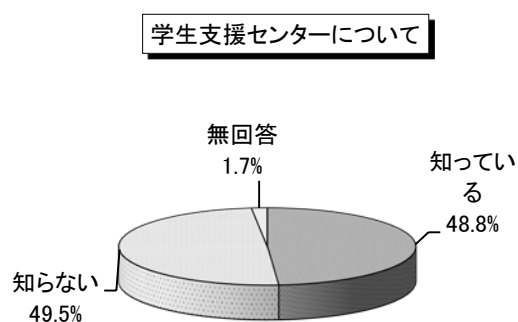
### 3-19 オフィス・アワーについて

「オフィス・アワーを知っていますか」とたずねたところ、「知っている」72.8% (300人)、「知らない」25.7% (106人)であった。さらに、「知っている」と回答した学生に利用したことがあるかについてたずねたところ、「利用したことがある」と回答した学生は19.0% (57人)であった。



### 3-20 学生支援総合センターについて

「学生支援総合センターを知っていますか」とたずねたところ、「知っている」が48.8% (201人)、「知らない」が49.5% (204人)であった。さらに、「知っている」と回答した学生に利用したことがあるかをたずねたところ、「利用したことがある」と回答した学生は19.4% (39人)であった。



## 学生支援総合センターからのコメント

### 3-16 学内外でのトラブル

「学内外でのトラブルにあったことがある」と答えた学生は、昨年度より微減して14.1%でした。そのうち最も多かったものが「交通事故」です。焼津は信号無視などをする車がかなり目立ちます。十分注意してください。授業など余裕をもって間に合うように、早めに家をでるようお願いします。また、「ハラスメント（嫌がらせ）」は、一人で抱え込まないで学生支援総合センターなどに遠慮なく相談に来てください。

### 3-17 学生生活への不安や悩み

悩みをもたない人はほとんどいないでしょう。悩みはあるけれど、それを誰かに話すなどして、上手に解消しているのだと考えられます。それに対して、悩みはあるのに「相談する人がいない」、「相談したいと思わない」という人が決して少なくないことが気になります。悩みを一人で抱え込まず、学生支援総合センターを利用してください。話をすることで、かなりスッキリするはずです。

### 3-18 退学について

19.4%、つまりは、約5人に一人の学生が「退学を考えたことがある」と答えています。その一番の理由は、「人間関係」でした。以前ほど直接他者と関わることが少なくなりつつある社会になり、他者との距離をどのようにとったらよいのか悩んでいるのだと思います。また、SNSなどによる書き込みによって人間関係がぎくしゃくしてしまう、という相談も増えています。人間関係で悩みが生じた時には、是非、学生支援総合センターへいらしてください。

### 3-19 オフィス・アワーについて

オフィス・アワーを知っている学生の割合は72.8%となり、前年の62.9%から大きく上昇しました。引き続きこの割合を上げるように周知を徹底したいと思います。また、利用したことがある学生は19.0%ですが、授業以外でも教員や学生と気軽に触れ合うことのできる機会ですので、是非、活用してください。

### 3-20 学生支援総合センターについて

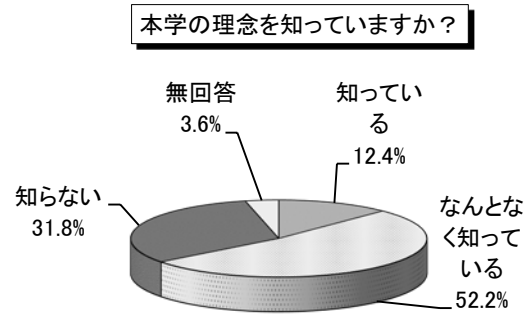
「知っている」学生が48.8%で、「知らない」学生が49.5%ということは、知らない学生の方が多ということになります。入学時のオリエンテーションに学生支援総合センターのメール・アドレスの登録をお願いしていますから、この数字の低さは意外ですが、もしかしたら学年があがるにつれて存在を忘れてしまっているのかもしれませんが。

## 第4章 大学

### 4-1 本学の理念（建学の精神）の認知

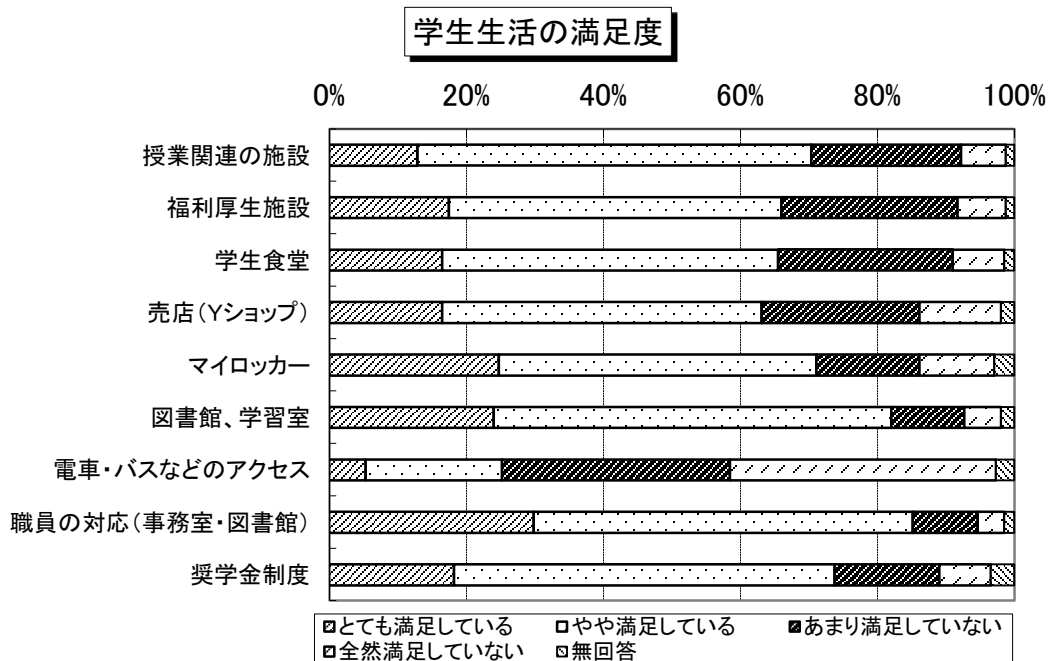
「本学の理念（建学の精神）を知っていますか」とたずねたところ、「知っている」が12.4%（51人）、「なんとなく知っている」が52.2%（215人）、「知らない」が31.8%（131人）であった。

大学ではその方法として、学内の掲示、学長との新入生懇談会、「キャンパスライフの手引き」等を通じて、周知を行っている。しかし、3割以上が「知らない」と回答しており、さらに



### 4-2 大学生生活の満足度

「次にあげた項目について、どの程度満足していますか」とたずねたところ、以下の結果が得られた。



「教室、体育館などの授業関連の施設」については、「とても満足している」12.9%（53人）、「やや満足している」57.5%（237人）、「あまり満足していない」21.8%（90人）、「全然満足していない」6.6%（27人）という結果であった。「トイレ、学生ホール、部室などの福利厚生施設」については、「とても満足している」17.5%（72人）、「やや満足している」48.5%（200人）、「あまり満足していない」25.7%（106人）、「全然満足していない」7.0%（29人）という結果であった。「学生食堂」については、「とても満足している」16.5%（68

人)、「やや満足している」49.0% (202人)、「あまり満足していない」25.5% (105人)、「全然満足していない」7.5% (31人)という結果であった。「売店(Yショップ)」については、「とても満足している」16.5% (68人)、「やや満足している」46.6% (192人)、「あまり満足していない」23.1% (95人)、「全然満足していない」11.9% (49人)という結果であった。「マイロッカー」については、「とても満足している」24.8% (102人)、「やや満足している」46.4% (191人)、「あまり満足していない」15.0% (62人)、「全然満足していない」10.9% (45人)という結果であった。「図書館、学習室」については、「とても満足している」24.0% (99人)、「やや満足している」58.0% (239人)、「あまり満足していない」10.7% (44人)、「全然満足していない」5.3% (22人)という結果であった。「本学への電車・バスなどのアクセス」については、「とても満足している」5.3% (22人)、「やや満足している」19.9% (82人)、「あまり満足していない」33.3% (137人)、「全然満足していない」38.8% (160人)という結果であった。「事務室や図書館などにいる職員の対応」については、「とても満足している」29.9% (123人)、「やや満足している」55.3% (228人)、「あまり満足していない」9.5% (39人)、「全然満足していない」3.9% (16人)という結果であった。「奨学金制度」については、「とても満足している」18.2% (75人)、「やや満足している」55.6% (229人)、「あまり満足していない」15.3% (63人)、「全然満足していない」7.5% (31人)という結果であった。

以上のように、「大学生活の満足度」の全項目について比較すると、「大学への電車・バスなどのアクセス」についての満足度は際立って低い。

#### 4-3 施設や制度、対応等大学への要望や意見

施設や制度、対応への要望や意見については、89名の記述がみられた。

内容の大半を占めていたのが、「バスの増便」「スクールバスの運行」「電車とバスとの連携の悪さ」といった大学と最寄り駅間のバスに関する要望であった。

バス以外に関する内容としては、①「トイレの中の数が少ない」「駐輪場に街灯や屋根の設置」「給水機の設置」「娯楽施設の設置」などの施設面への要望、②「トイレの音姫が使えない」「ロッカーを無料にして欲しい」「飲食スペースの増設」「体育祭の実施」などといった現状に対する要望や意見、③学食メニューや売店商品の充実化への要望、④図書館職員の私語に関する意見が見られた。

## 学生厚生委員会からのコメント

学生厚生委員会では、皆さんが充実した大学生生活を送れるよう、学友会（代議委員会・体育会文化会・大学祭行事委員会・卒業行事委員会等）やオフィスアワー等の支援を行っています。学生生活の現状を理解し、課題について一緒に取り組みたいと思います。

### 1. 学生生活について

**(1) アルバイトの状況** 「アルバイトしている」のは75.7%（312人）で、週3回以上が54.6%（225人）、1日6時間以上が51%（202人）でした。3年間の調査結果をみると、アルバイトの時間がやや長くなる傾向がみられます。深夜や長時間に渡るアルバイトが学業をはじめ、心身の健康面へ与える影響が心配されます。また、社会問題となっているブラックバイトに関する相談もあることから、アルバイトの事で悩んでいる方は、一人で問題を抱えずに、学生教務課や学生支援総合センターへ相談にきてください。きっと良いアドバイスがもらえると思います。

**(2) 通学時間** 「通学時間が1時間以上」が50.5%（209人）で、3年間で6%増加しています。そのうち、2時間以上の方が8.3%（33人）います。通学手段は、バスと電車が200人以上で最も多く、授業時間とバス、電車のアクセスにより通学時間が変わることから、バスに関する要望が多く出されています。一方、自転車（185人）、自動車（116人）、バイク（47人）での通学も多いことから、交通事故には十分気を付け、交通ルールをしっかり守るようにしてください。

**(3) 大学生活の充実度** 75.0%の学生が「充実している」と回答し、2年間で約10%増加しています。この要因として、学生が大学生活で興味・関心を持っているのは、「友人との交流」40.8%（168人）、「資格取得」38.1%（157人）が高く、次いで「サークル活動」18.7%（77人）でした。これらの事が充実度に関係していると考えられます。その一方で、学友会活動への参加は1割強と少なく、行事へは様々な要望が出されています。充実した大学生活を送るためにも、日ごろの友人との交流やサークル活動、資格取得の勉強以外に、春休みや夏休みの長期休暇期間を使って、ボランティア活動にも、取り組んでみましょう。

**(4) 学生マナーについて** 「学生マナーの改善点がある」が58%（239人）で、授業中の退出や私語が57.7%（138人）、公共交通機関マナー、駐輪場・駐車場のマナー、ごみのポイ捨てが約20%前後でした。授業に関するマナーは、FD委員会と連携し、改善に向けた取り組みを検討したいと思います。

### 2. 大学について

**(1) 大学生活の満足度** 「図書館、学習室」「事務の対応」が高く、「電車・バスなどのアクセス」は約75%の学生の満足度が低い状況です。2015年度より試行的に、祝祭日の通常授業時に無料バスを用意しましたが、今後も課題点を改善しながら継続していく予定です。自由記述では、トイレの問題（消音装置）や大学の設備、売店の商品、食堂の環境・メニューなどに関する要望、図書館職員のマナー等に関する記述が複数ありました。このうち、学生食堂や売店の改善については、学生厚生委員会と代表学生、学食業者との協議、さらに学食利用学生へのアンケート調査を実施し、改善に向けて取り組んできました。これらの要望は、日常的に簡単に解決できる問題も多い事から、1年間を通じて、学友会や学生教務課へ、ご意見をいただければと思います。学友会、学生教務課、学生厚生委員会がその内容を検討し、実施可能なことから、対応していきたいと思います。

## 総務課からのコメント

### 4-2 大学生活の満足度

#### (1) 公共交通機関のアクセス向上について

スクールバスの常時運行につきましては、過去に何度も検討してきたところであり、利用する学生数によっては、学生の負担が現行のバス料金より高額になるおそれがあることや、しずてつジャストラインバス利用者の減少による運行数の大幅な削減が予測され、その場合、地域社会に与える影響が大きいと思われることから困難との結果となっています。

最寄り駅からのアクセス向上については、路線バスを運行しているしずてつジャストラインバスへは、大学の授業開始時及び終了時に合わせたバスの運行並びに運行バスの増便について要請しており、昨秋からは5時限授業の終了時刻17:50分に対応するため、大学発焼津駅行きバスの発車時刻を遅らせて、18:00分発に変更実施されています。今後も引き続き増便等について要請していく考えです。

なお、祝日の通常授業日については、しずてつジャストラインバスの運行本数が少なくなることから、平成27年度から西焼津駅と大学間にスクールバス(無料)を3便走らせています。こちらについては、事前予約制となっておりますが、利用学生も徐々に増加傾向にあります。また、ご要望のあった焼津駅発バスの運行計画も検討を行っているところで

#### (2) 学内施設の改善・充実について

駐輪場の街灯設置は、防犯対策としても重要であり、既に講義厚生棟裏の駐輪場には、照明の設置を行いました。また、防犯対策の一環として、大学の全ての出入口を終日撮影できる防犯カメラを設置し、無断侵入者、不審者等のチェックを行っています。

女子トイレの「擬音(消音)装置が稼働していない」というご意見に対しては、春休み中に学内施設の一斉点検を行い、電池切れなどの問題個所についてすべて確認、解消いたしましたので、今後のご不便をお掛けすることはないと考えております。

食堂の机の増設については、27年度にテーブル7台と椅子30脚を新たに購入、設置してまいりました。今後も随時テーブル、椅子の入れ替え等を検討しております。

#### (3) 学生サービスの向上について

学食メニューは、これまでもイベントメニューとして特別食を提供するなど、学生に喜んでもらえるようなメニューを提供してまいりました。今後も食堂業者とも協議し、皆さんからのご意見、要望などが反映され、多くの学生の皆さんが快適に利用していただけるような、魅力ある学生食堂となるよう検討してまいります。

売店の商品については、顧客の中心が学生の皆さんということで対象人数、商品の嗜好が限られた状況のなかで、売れ筋商品を中心に販売を行っております。そのため、商品の種類が少なくなりがちですが、 possible の限り皆さんの要望に沿える売店商品の充実について、本学と業者が連携して改善に向け努力してまいります。